：50），英彦山，障子岳，深倉峡，若杉山，古処山，熊渡山（高倉康男，1978 生物福岡(18)：28），大官山（有江敬助），1982 北九州の昆虫 29(1)：53）.

大分県由布院町山下池附近（大塚　勲，1969 甲虫ニュース(7)：3）.

長崎県平戸島安満岳（松尾照男，1982 北九州の昆虫 29(2)：90）.

宮崎県霧島山麓（磯崎恵明，1968 タテハモドキ (3)：34. 清水　薫ほか 1969 霧島山総合調査報告書：264）.

熊本県八代郡国見岳（土居義金，1968 北九州の昆虫 14(3)：89），市房山（大塚　勲，1968 甲虫ニュース (3)：3），椎矢峠・五家荘（仁田尾），市房山，八代郡泉村二本杉（栗田琢也，1985 熊本昆虫同好会報 30(2)：16）.

鹿児島県屋久島（三宅純男，1971 月刊むし 1(2)：35. 中根猛彦，1984 屋久島原生自然環境保全地域調査報告書：60），屋久島ウイルソン株～高塚小屋（加藤泰久・豊島亮司 月刊むし (136)：37）.

以上全国的に見てほゞ満遍なく分布している種なのではないかと思われるがやはりブナ，スギ，カエデなどの空洞にいると云われている様に幾分高地性で東北地方には割合多く産する種ではないかと考えられる。

兵庫県下でも戦前から色々と話題になったが氷の山，扇の山には分布している種で，近くでは伯耆大山に多いことは良く知られていて中国山脈には全体に分布しているのではないだろうか。また摩耶山あたりにもまだ元気にいそうに思われ（県下中間帯に全く記録の無い特異な分布をしている種でもあり）開発によってその生活は遂次侵されつゝはあるが，なんとか生きつゞけてほしいものではある。（DEC. 1985）

兵庫県のベニボタル (1)

（兵庫県甲虫相資料・169）

高　橋　寿　郎

日本産ベニボタルに就いては中根猛彦博士による名著〝Fauna Japonica：Lycidae，1969〟でその当時までの日本産6族，19属，87種が詳しく解説された。これによって日本産ベニボタルの研究史も良くわかるし，日本にいるベニボタルの同定も非常にやり易くなった。なおこの著では和名が全く使用されていないが同博士は同じ年〝日本産ベニボタル科目録〟を発表しておられるの

でそちらを見れば良いわけである。その後引続き中根博士による研究（1970，1970，1975，1977，1980，1985）及び中條道夫・佐藤正孝氏の研究（1970）により10種2亜種が知られている。

中根博士の1969年の論文の中で1種はその後中根博士がヨーロッパのタイプを調べた結果日本産でないらしいとされている。1亜種が独立種に格上げされており，1種が独立属の種と扱われた。1970年に北海道産の1新種，1985年には九州，西表島産3新種と1亜種の種への昇格の記載をしておられる。従って日本産のベニボタルは6族20属97種が知られていることになるかと思う。1984年迄の経緯については中根博士が概説をしておられる（1984）。

いづれにしても本州にだけいる種というのは58種位のようである。1985年には松田　潔，佐藤正孝氏による原色図説（原色日本甲虫図鑑　Ⅲ，70種図説）も出版されこの仲間の同定も比較的楽になった。とは云え類似種が結構多いので同定はそれ程楽でない点も多々ある。

一方これらベニボタル類の生態面についてはほとんど見るべきものがない。その生活がわかっていないものばかりである。この方面の調査は今後の課題の一つかとも思う。

兵庫県に産するベニボタル類については筆者が1964年に18種を記録したが同定の誤りもありその後多くの資料の集積もあり筆者自身も出来るだけ調査につとめた結果此処に再度県下産ベニボタル類をまとめ報告させて頂くことにした。まだ未調査地点もあれば調査不充分の点も多々あるのでこれ以上の種が分布していることも考えられるし個々の種に就いてもより詳しい調査をしなければいけないように考えられる。尚浅学未熟のため同定上の誤りが多くあるかと心配している御指導，御教示を頂ければ幸である。

Family　Lycidae　　ベニボタル科

1. Lycostomus modestus (Kiesenwetter, 1874)　　ベニボタル

Kiesenwetterにより九州を産地にLycus modestusとして記載された種である(Berliner Ent. Zeitschr., 18:250-251, 1874)。分布は可成り広いし大方の図鑑にも図説されて良く知られている種である。口器が前方へ著しく突出し両眼の間にへこみがある特徴で簡単に見わけることが出来る。幼虫は朽ちた針葉樹皮下に見出されるとある。

本種は兵庫県下でも広く分布しているし，可成り普通に得られる種である。

産地：川辺郡猪名川町上阿古谷，槻並〔仲田，1978，1982〕*。川西市笹部，横地〔仲田，1978，1982〕，一の鳥居（lex., 17-Ⅵ-1953）。神戸市御影〔関，1933〕，六甲山（lex., 10-Ⅶ-1955），二十渉（2exs., 26-Ⅵ-1955），山の街（lex., 13-Ⅵ-1954，2exs., 1-Ⅵ-1958，2exs., 7-Ⅵ-1959），藍那（lex., 10-Ⅵ-1978），押部谷町木見（lex., 23-

* 産地の所で〔　〕は記録の引用，（　）の中は筆者採集標本所有のもの。

Ⅵ－1980)，烏原（3exs.，11-Ⅵ-1967，lex.，1-Ⅵ-1969，lex.，6-Ⅵ-1980，lex.，11-Ⅵ-1980，lex.，12-Ⅵ-1980，lex.，15-Ⅵ-1980，lex.，7-Ⅵ-1981，lex.，16-Ⅵ-1981，lex.，17-Ⅵ-1981，lex.，4-Ⅵ-1982，lex.，29-Ⅴ-1983，lex.，1-Ⅵ-1983，lex.，2-Ⅵ-1983，lex.，3-Ⅵ-1983，lex.，30-Ⅵ-1984，lex.，24-Ⅵ-1984，lex.，4-Ⅵ-1985）。美嚢郡吉川（3exs.，30-Ⅴ-1985）。加東郡東条町森（lex.，22-Ⅵ-1984，2exs.，4-Ⅶ-1984）。多可郡三谷（16exs.，8-Ⅵ-1975），鳥羽（5exs.，5-Ⅶ-1975）。神崎郡大河内町川上（2exs.，2-Ⅶ-1977，2exs.，15-Ⅶ-1977，5exs.，23-Ⅶ-1977）。相生市三濃山（lex.，20-Ⅶ-1974）。宍粟郡福知渓谷（lex.，20-Ⅵ-1976），水谷（40exs.，17-Ⅶ-1981），音水（lex.，13-Ⅵ-1958，5exs.，20-Ⅶ-1959，2exs.，25-Ⅵ-1972，K. Tsuji det.，3exs.，24-Ⅵ-1973）。城崎郡三川山〔高橋，1975，1985〕。養父郡氷の山（lex.，12-Ⅶ-1951，2exs.，2-Ⅷ-1953，2exs.，25-Ⅶ-1955，4exs.，27-Ⅶ-1956，12exs.，21-Ⅶ-1958）〔中根，1969，高橋，1985〕。美方郡扇ノ山〔辻，1960，1963.，辻，岸田，1972，高橋，1975，1985〕。

2. Lycostomus semiellipticus Reitter, 1910　フトベニボタル

Reitterの記載した種であるが原記載（Wiener Ent. Zeitg. 29：204，1910）を見ていないので日本の何処産で記載されたのか知らない。前種の様に頭は吻状に延びている種で前種とは前胸の形が違い（半円形に近い），体は巾広く暗色毛を装う等の点で見別けられる（原色図説もある）。

中根博士によると原型はおもに中部山地以北におり広島県から西には上翅が黒くて黒毛をもち，肩部周辺が広く赤くて赤い毛をもつsubsp. kumamotonis（松村松年博士が北大所蔵の熊本産標本に命名されたもの）が分布するとされている。兵庫県産のものは原型だと思われる。分布は北海道，本州，四国，九州と広いが兵庫県下ではやゝ山地帯に分布しているようで可成り個体数が少いように思われる。

産地：神戸市山の街（lex.，7-Ⅵ-1959）。多可郡鳥羽（lex.，5-Ⅶ-1975）。宍粟郡音水（lex.，20-Ⅶ-1959）。養父郡氷の山（lex.，12-Ⅷ-1955）。美方郡扇の山〔辻・岸田，1972〕。

3. Calochromus rubrovestitus Nakane et Ohbayashi, 1955

ツヤバネベニボタル

中根猛彦博士と大林一夫氏により記載された種である（Akitu，Vol. Ⅳ，No.2，pp. 29-30，1955）。

タイプに使用された標本の産地は青森県（Yachionsen, Towada），岐阜県（Hirugano, Amagodani），京都府（Ashiu, Mikuni－toge），和歌山県（Kitayamakyo）である。現在分布は本州，四国，九州と知られている。

兵庫県下で筆者は未採集であるが次の様な記録がある。県下でどの様に分布しているのが良くわかっていない。原色の図説もある（1963，1985）。

産地：養父郡氷の山〔lex., 17－Ⅷ－1972, K. Tsuji leg.〕。美方郡扇ノ山〔辻，岸田，1972〕。

4. Macrolycus excellens Nakane, 1969　　オオクシヒゲベニボタル

中根博士により記載された種である（Fauna Japonica, Lycidae, pp.31－33, 1969）。

タイプ標本の産地は青森県（Yachi Spa），奈良県（Kasuga），鳥取県（Hoki Daisen），愛媛県（Odamiyama），福岡県（Mt. Sobo）であり，分布は本州，四国，九州である。割合大形で前胸後角は上から見て棘状に外へ突出している。

兵庫県下での記録は従来あまり無いようであるが案外見落されているのではないだろうか。

産地：神戸市六甲山（lex., 19－Ⅵ－1967），藍那（lex., 10－Ⅵ－1978），烏原（lex., 1－Ⅵ－1969, lex., 10－Ⅵ－1980, lex., 11－Ⅵ－1980., lex., 24－Ⅴ－1982, lex., 8－Ⅵ－1982, lex., 15－Ⅵ－1982, lex., 6－Ⅵ－1983, lex., 14－Ⅵ－1983, lex., 18－Ⅵ－1984, lex., 30－Ⅵ－1984），垂水（3exs., 10－Ⅴ－1985）。美嚢郡吉川（lex., 6－Ⅵ－1985）。

5. Macrolycus flabellatus (Motschulsky, 1860)　　クシヒゲベニボタル

MotschulskyによりLygistopterus属の種として記載された種である（Schrenck's Reisen u. Forsch. Amur.－Lande, 2(2), Col.：114, pl. 7, fig.29, 1860）。

分布は可成り広く中国，朝鮮，樺太とか東シベリアに産し日本では北海道，本州，四国，九州に分布とあるが中根博士によると本州の中部以北にふつうに見られる種であると述べておられる。松田，佐藤両氏も近畿地方以西では局地的で個体数も少いとしておられる（1985）。兵庫県下での記録はあるが筆者自身は加東郡下で採集しているだけで県下産の分布が今一つ良くわからない種である。尚筆者が1964年にコクシヒゲベニボタル Macrolycus dominator として記録した種は同定間違いであったのでこゝに取消しておく。

産地：川西市大和，笹部〔仲田，1978，1982〕。加東郡東条町森（lex., 18－Ⅴ－1984）。養父郡氷の山〔高橋，1985〕。美方郡扇ノ山〔辻，1960，1963，高橋，1975，1985〕。

6. Macrolycus montanus Nakane, 1967　　ミヤマクシヒゲベニボタル

中根博士により記載された種である（Frag. Coleop. Pars. 18, p.71, 1967）。そのタイプの産地は長野県（Shimashima－dani, Iwanadome, Kiso Ontake），静岡県（Kida），三重県（Ohsugidani），和歌山県（Mt. Ohdaigahara）である。

本種は前記クシヒゲベニボタルに大変良く似ているが可成り小さく前胸背の側方より円味を有し前方ふくらんでいる。交尾器の形状も異る。分布は本州だけのようである。兵庫県下では和名のように山地帯でみつかっているだけであり良く調査をしなくてはいけない種である。

産地：宍粟郡赤西（lex., 3－Ⅵ－1979）。美方郡扇の山〔高橋，1978〕。

7. Macrolycus similaris Nakane, 1969　　ヒメクシヒゲベニボタル

中根博士の記載された種である（Fauna Japonica：Lycidae, pp. 26－28, 1969）。

タイプの産地は次のように多い。即ち鹿児島県（Sata），福岡県（Mt. Sobo），愛媛県（Omogo, Mt. Tengudake, Odamiyama），鳥取県（Mt. Hoki－Daisen），隠岐島（Goka, Mt. Daimanji）。

同博士が1967年M. pectinifer（Kiesenwettor, 1874）として記録された（Frag. Coleop. pars. 18, p.71, 1967）のがこの種に当る。

この種もクシヒゲベニボタルに似るがやゝ小形で♂触角第3節は三角形で分枝がない。

兵庫県下ではやゝ山地帯に分布しているようである。

産地：多可郡白山（1♀, 27－Ⅴ－1973, K. Tsuji det.）。宍粟郡音水（lex., 20－Ⅶ－1959, 1♂, 15－Ⅶ－1973, K. Tsuji det.）。養父郡氷の山（lex., 25－Ⅶ－1959）。美方郡扇ノ山〔辻，岸田，1972〕。

8. Mesolycus atrorufus（Kiesenwetter, 1879）　　ホソベニボタル

Kiesenwetter がEros 属で記載した（Deutsch. Ent. Zeitschr., 23：305, 1879）。Schönfeldt は日本産甲虫目録（1887）の中でDictyopterus 属で記録している。また同じくMesolycus puniceus Gorhamと記録された種も本種のことである。

本種の図説は割合多くあり分布も広い。花上に多くいるともある。兵庫県下での分布も広いようであるが個体数はそれ程多いとも思われない。

産地：川辺郡猪名川町民田〔仲田，1970，1978，1982〕。神戸市山の街（lex., 4－Ⅶ－1954）。神崎郡笠形山（2exs., 12－Ⅵ－1975）。宍粟郡坂の谷（3exs., 22－Ⅶ－1979）。氷上郡〔山本，1958〕。養父郡氷の山（lex., 27－Ⅶ－1956, lex., 21－Ⅶ－1958, lex., 27－Ⅶ－1956, lex., 21－Ⅶ－1958, lex., 25－Ⅶ－1959）。美方郡扇ノ山〔辻，1960,

辻，岸田，1972〕。

9. Libnetis granicollis (Kiesenwetter, 1879)　　コクロハナボタル

Kiesenwetter がEros 属で記載（Deutsch. Ent. Zeitsch. 23：305，1879）。中根博士による図説ならびに解説があり（1953，1963，1984），松田，佐藤両氏も原色で図説された（1985）。分布は日本全土である。兵庫県下にも広く分布していると考えられるが記録は思った程されていない。

産地：神戸市藍那（1ex.，14：Ⅶ−1978）。神崎郡大河内町川上（3exs.，15−Ⅶ−1977，2exs.，23−Ⅶ−1977）。朝来郡須留ケ峰（1ex.，31−Ⅴ−1975，M.Yuma leg.）。宍粟郡音水（1ex.，15−Ⅶ−1973）。氷上郡〔山本，1958〕。養父郡氷の山（2exs.，27−Ⅶ−1956，2exs.，21−Ⅶ−1958）。美方郡扇ノ山〔辻，岸田，1972〕。

（JAN. 1986.）

宝塚大橋のカメムシ

新家　勝

Ⅰ．はじめに

1978，9．新装成った宝塚大橋の電燈に飛来する蛾の採集を始めた頃，甲虫，カメムシなどの各種昆虫もこの電燈に多数飛来した。著名なヨコヅナツチカメムシが採れることやオオホシカメムシの多いことに驚いた。蛾だけでなく，これらの昆虫も一通り採集することにしたところ，カメムシは二十余種に達し，その中には結構興味深いものもあるので，報告させていただく。今回の報告は1978. 9〜1985. 12間とし，「宝塚市」は省略して記載する。

Ⅱ．報告内容

1. Cydnidae　ツチカメムシ科

(1) Adrisa magna Uhler　　ヨコヅナツチカメムシ

Ⅴ，29, 1979　武庫川町

Ⅵ，3, 1979　武庫川町

Ⅳ，27, 1983　武庫川町

Ⅳ，27, 1983　南口2丁目